

## 「ガリラヤの春」

2014年07月26日

マルコによる福音書3章7節～12節。「イエスは弟子たちと共に湖の方へ立ち去られた。ガリラヤから来たおびただしい群衆が従った。また、ユダヤ、エルサレム、イドマヤ、ヨルダン川の向こう側、ティルスやシドンの辺りからもおびただしい群衆が、イエスのしておられることを残らず聞いて、そばに集まって来た。そこで、イエスは弟子たちに小舟を用意してほしいと言われた。群衆に押しつぶされないためである。イエスが多くの病人をいやされたので、病気に悩む人たちが皆、イエスに触れようとして、そばに押し寄せたからであった。汚れた霊どもは、イエスを見るとひれ伏して、「あなたは神の子だ」と叫んだ。イエスは、自分のことを言いふらさないようにと霊どもを厳しく戒められた。」

主イエスの周りには大勢の群衆が群がった。主イエスの素晴らしい言葉と力ある業を伝え聞き、宣教地であったガリラヤはもちろん、ユダヤ、エルサレム、南の異教地・イドマヤ、北の地中海に面した異教地・ティルス、シドンから、人々は高举して押し寄せてきた。いつの時代も、民衆は飢え渴いているので、確かに生かしてくれるものを欲している。

群衆に押しつぶされそうになったので、小舟に乗って岸から離れ、岸辺に集まった人々に話された。福音書には、このシーンがしばしば記されている。神はあなたを愛し、生きよと祝福してくださっているという言葉は民衆を勇気づけた。病に悩む人々はいやされ、大きな喜びを味わった。悪霊に取りつかれて苦しむ人々は解放され、正気を体験した。明るく、楽しい笑いが、至る所で聞かれ、広がった。「ガリラヤの春」と言われる主イエスの宣教は時代を揺り動かしていた。

上記の御言葉で興味深いことは、汚れた霊（悪霊）たちは主イエスを見るとひれ伏し「あなたは神の子だ」と叫んでいることである。民衆は自分たちの願望を主イエスに押し付け、幸いを得たいと望んでいるが、悪霊だけは恐れている。悪霊とは人を絶望に追い込み、自らを否定させ、他との関係を切る諸々の力である。神から遠い悪霊は、主イエスに「聖なる神の子」の姿を見抜いている。この逆説が真実であろう。

パウロはローマ書5章20節に「罪が増したところには、恵みはなおいっそう満ちあふれました」と書いている。彼は絶望的な自分の罪を知った時、それを赦してくださる圧倒的な恵みの事実を体験した。また、パウロの名を借りて書かれたテモテ書一1章15節に「『キリスト・イエスは、罪人を救うために世に来られた』という言葉は真実であり、そのまま受け入れるに値します。わたしは、その罪人の中で最たる者です」と記している。「罪人の中で最たる者」であったから、福音の奥義を究め、キリスト教を世界の宗教として広める宣教を可能にしたのである。悪霊に取りつかれ苦悩する経験は誰もがしている。絶望的な思いは避けたいことではあるが、福音に巡り合う機会でもあることを知って、自分の罪に向き合い、苦悩を恐れない者でありたいと示される。

主イエスは悪霊に「自分のことを言いふらさないように」と厳しく戒められた。主イエスの使命は病を癒し、悪霊を追放する奇跡を行うことではなく、自らが十字架で死んで、人間の罪を赦すことであった。見えるところでもてはやされる徒な騒ぎは、秘めた使命遂行のため避けたいことであったのではないか。神の恵みと真理は隠されており、主イエスをキリストと信じる時、露わにされていく。